

遺跡等マネジメント研究集会（第1回） 「自然的文化財のマネジメント」

開催趣旨

今年度から開催する『遺跡等マネジメント研究集会』は、『遺跡整備・活用研究集会』での成果を受けつつ、遺跡をはじめとする記念物やその他の遺産の保護について、総合的・包括的・横断的な観点からのマネジメントを通じた取組の在り方などを検討することとしている。

その第1回のテーマを「自然的文化財のマネジメント」としたのは以下のような背景による。

近年、日本における文化遺産保護の検討は、地域における文化財の総合的把握との文脈において取り組まれつつある。それまでのさまざまな取組を総合する方策として、文化財行政施策の「歴史文化基本構想」や地域づくり施策の「歴史的風致維持向上計画」などの枠組みが定着しつつある。遺跡整備の諸課題についての検討も、もはや、遺跡そのものの保存やその活用ということにとどまらず、地域における総合的な文脈において取り組まれるのが普遍的な趨勢となりつつあると言える。すなわち、その地域にあって密接な関連を有する文化的・自然的な資産との総体において検討するという姿勢である。しかし、それらの取組においては、史跡や建造物など、いわゆる歴史的な遺産として比較的認知されやすいものを主体として構成される事例が多く、地域がその成り立ちの根本的背景としてきた自然的なもの、あるいは、その地域の風土を代表する自然的な資産との関係が、ややもすると付随的に取り扱われることも少なくないと思われる。

このような地域における自然的な資産の把握やその保全については、文化的な資産との密接な関連を念頭に、国際的な取組においてもさまざまな観点が導入されるようになってきた。例えば、2010年10月に「山陰海岸ジオパーク」が加盟認定された『世界ジオパーク・ネットワーク』(Global Geopark Network/GGN) や、2011年6月に「能登の里山里海」と「トキと共生する佐渡の里山」が登録決定された『世界重要農業遺産システム』(Globally Important Agricultural Heritage Systems/GIAHS: 国連食糧農業機関 [FAO] の提唱による。) などである。これらは、2010年の国際生物多様性年 (International Year on Biological Diversity) において議論が重ねられてきたように、生物多様性や自然環境保全と、地域の生活や文化 (あるいは、その表象たる文化的資産) との密接な関わりを示すものとして注目されている。そして、このような流れは、国際的な協力体制の下に文化と自然の遺産の一体的な保護を目的とした『世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約』における取組にも通じるものでもある。いまや、地域における文化と自然の保護に関する検討は、相互の関係を前提として検討されるべきであるという理解が普遍的に広がりつつあるといっても過言では無い。その背景にあるのは、例えば、世界の持続的発展を検討する上で極めて重要な生物多様性と文化多様性が本質的かつ密接な繋がりを有しており、地域の文化が自然環境保全と不可分の関係にあるという認識などである。

一方、韓国においては、2000年代以降、文化財保護に関する包括的な議論が行われ、従来の文化財 (Cultural Property) を国家遺産 (National Heritage) と呼称することとし、近年における国内外のさまざまな情勢や急速に変化する社会に応じた新たな枠組みが検討される中で、それらの遺産を文化と自然の分野に大別することで合意し、文化財庁においては、特に文化遺産と自然遺産の架け橋となるべき重要な名勝の指定と保護に関する取組が強力に推進されている。また、このような流れを受け、国立文化財研究所においては、自然遺産に関する研究を重点的に推進するため、2006年に「天然記念物センター」(천연 기념물 센터/Natural Heritage Center) を設置するとともに、自然文化財研究室 [部] に相当] を新設し、さまざまな取組が推進されている。

また、日本国内において文化財としての取扱いに戸惑いが示されることの少なくない天然記念物や自然の名勝などの自然的文化財の保護についても、近年、その取組が大きく進展している。

以上のようなことを踏まえ、今回、天然記念物や自然の名勝の保存や活用に関する日本と韓国における検討を主軸として、両国の取組の比較検討を通じ、「自然的文化財」(あるいは、「文化財としての自然的な資産」) のマネジメントの在り方について検討したい。

平成23年度 遺跡等マネジメント研究集会（第1回）

- a. 開催期日：平成24年（2012） 2月16日（木）～17日（金）
- b. 開催場所：平城宮跡資料館講堂
- c. テーマ：「自然的文化財のマネジメント」
- d. 事務局：奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室
- e. 構成案：（韓国語→日本語には逐次通訳）

平成24年（2012） 2月16日（木）

12:30～13:30 開場・受付

13:30～13:35 開会挨拶 小野 健吉（奈良文化財研究所文化遺産部長）

【趣旨説明等】（仮）「自然的文化財の保護」について

13:35～14:05 平澤 毅（奈良文化財研究所・遺跡整備研究室長）

【基調講演】（60分）（仮）文化財と自然

14:05～15:05 亀山 章（東京農工大学・名誉教授）

【休憩】15:05～15:20

【講演①】（50分）（仮）日本における天然記念物の保護

15:20～16:10 桂 雄三（文化庁記念物課天然記念物部門・主任文化財調査官）

【講演②】（75分）（仮）韓国における自然文化財に関する近年の取組

16:10～17:25 李 偉樹（大韓民国・国立文化財研究所・自然文化財研究室長）

18:00～20:30 情報交換会（於：平城宮跡資料館講堂、個人会費制）

平成24年（2012） 2月17日（金）

【事例研究①】（60分）（仮）〈韓国の事例〉韓国の「村の森」

9:30～10:30 張 美娥（大韓民国・国立文化財研究所）

【事例研究②】（45分）（仮）〈日本の事例①〉コウノトリの郷 [兵庫県豊岡市]

10:30～11:15 松井 敬代（豊岡市教育委員会 文化振興課）

【事例研究③】（45分）（仮）〈日本の事例②〉糸魚川ジオパーク [新潟県糸魚川市]

11:15～12:00 竹之内 耕（糸魚川市教育委員会 博物館）

12:00～12:10 講演の要約 [事務局（青木達司）] +（質問票回収）

【休憩】12:10～14:00

【総合討論】《自然的文化財の保護》（115分）

14:00～15:55 座長：平澤 毅 + 講演・報告者

15:55～16:00 閉会挨拶 平澤 毅（奈良文化財研究所遺跡整備研究室長）

Management Research Symposium for Cultural Sites in fiscal 2011 (the 1st)

- a. Date: 16-17, February, 2012
- b. Site: Hall in the Material Pavilion of the Heijo Palace site
- c. Theme: "Management of Natural Heritage as Cultural Properties"
- d. Secretariat: Sites Management Research Section, Department of Cultural Heritage,
Nara National Research Institute for Cultural Properties
- e. Composition Idea

*the 1st day

12:30-13:30 Opening the doors and acceptance, registration

13:30-13:35 Opening speech

ONO Kenkichi (Director of Department of Cultural Heritage)

Explanation of aim etc. About "Protection of Natural Heritage as Cultural Properties"

13:35~14:05 HIRASAWA Tsuyoshi (Head of Sites Management Research Section)

Keynote Address (60min.) (temporary) Cultural Properties and Nature

14:05~15:05 KAMEYAMA Akira

(Professors Emeritus, Tokyo University of Agriculture and Technology)

Break 15:05-15:20

Lecture 1 (50min.) (temporary) Protection of Natural Monument in Japan

15:20-16:10 KATSURA Yuzo (Chief Senior Specialist for Cultural Properties,
Monuments and Sites Division, Agency for Cultural Affairs)

Lecture 2 (75min.) (temporary) Challenge concerning the Natural Heritage in Korea

16:10-17:25 LEE Wi-Su (Director, Natural Heritage Center,

National Research Institute of Cultural Heritages, KOREA)

18:00-20:30 Reception

*the 2nd day

Anecdotal report 1 (60min.) [Case of KOREA] "Forest in Village" of KOREA

9:30-10:30 JANG Miah (National Research Institute of Cultural Heritages, KOREA)

Anecdotal report 2 (45min.) [Case 1 of JAPAN]

10:30-11:15 MATSUI Takayo (Toyooka City Board of Education)

Homeland of the Oriental White Stork (Hyogo Pref.)

Anecdotal report 3 (45min.) [Case 2 of JAPAN] Itoigawa Geopark (Niigata Pref.)

11:15-12:00 TAKENOUCI Kou (Itoigawa City Board of Education)

12:00~12:10 Summarization of Lecture and Report [secretariat]

Break 12:10-14:00

14:00-15:55 Integrated Discussion (115min.)

15:55-16:00 Closing Session

【参考】研究集会開催実績

■遺跡整備・活用研究集会（2006～2010年度）

第1回 平成19年（2007）1月25日（木）・26日（金）

テーマ「教育面に関する活用」

第2回 平成20年（2008）1月25日（金）・26日（土）

テーマ「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」

第3回 平成21年（2009）1月30日（金）・31日（土）

テーマ「埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題」

第4回 平成22年（2010）1月28日（木）・29日（金）

テーマ「遺跡内外の環境と景観 ～遺跡整備と地域づくり～」

第5回 平成23年（2011）1月21日（金）・22日（土）

テーマ「地域における遺跡の総合的マネジメント」